

北海道大学医療技術短期大学部看護学科の 皆さんがファミリーハウスを訪問されました

曾川 由美子

私はファミリーハウスの存在について、マクドナルドの広告を見て知りました。その時は、家族が離ればなれになり二重生活を送る辛さについて実感を持って理解することはできなかったと思います。今回話をきかせていただいた中で一番考えさせられたこととして、経験しなければわからない他者にはなかなか見えてこない精神的な苦しみや経済的な負担についてです。事前に学習を深めていく中で経済的な負担はどの程度あるのか具体的に数値に出してみたり、また精神的な辛さについても考えてきましたが、やはり実体験や利用している方の状況を聞かせていただくことにより、より強くその必要性を再認識することができました。また、現状として広い広報活動を行っていくことが必要であり、またそれは簡単なことではないというのを聞き、やはり今回の訪問のように実際に話を聞き、実感しなければ運動に参加していくことが難しいということも感じました。しかし、着実にその認識は広まっていると思います。私も今後、患者さんの気持ちになつて考えられる一番身近な存在である看護師という立場になります。今回の学習を基に、ファミリーハウスを必要としている患者さんにその情報を提供したり、より安心して生活を送っていくことができるよう支えていくことができる看護師となり、多くの人にファミリーハウスの必要性を伝えていきたいと思えます。お忙しい中貴重な話を聞かせていただき、本当にありがとうございます。

松井 透江

北海道ファミリーハウスの現状と運動そして今後の課題について、お話を聞かせていただき、ファミリーハウスが現在および未来においても入院を必要とする患者さんや家族にとって必要不可欠な存在であることを理解することができました。今後、さらに医療が進歩するにつれ、今まで治らなかつた治療困難な病気に対する治療法の確立も増えてくると考えられます。

その結果、人々の生命は守られることにつながりますが、長期的な治療を必要とする人が多くなると考えられます。このように患者さんや家族のニーズが高まり、ファミリーハウスの活用方法の変化や利用者の増加というように、その重要性はより大きなものになってくると考えられます。そのようにファミリーハウスの重要性が大きくなる中で、患者さんや家族にファミリーハウスの存在を知らせてあげなければ、ファミリーハウスの建物がいくら増え、ファミリーハウスがいくら増え、精神的支えや経済的負担の軽減のためにファミリーハウスを活用することはできません。そのため、より多くの医療



皆さんから多くの質問を受けました

者がファミリーハウスについて、お話を聞かせていただき、非常に重要であると感じました。お忙しい中、私たちのために時間を割いていただき本当にありがとうございました。

藤井 真美子

以前、授業でファミリーハウスについて知り、今回の小児看護学実習の一環としてレポート作成に当たり、先日の訪問の機会を設けていただいたことにより、ファミリーハウスの理念や運動の状況を学習することができました。中でも、すべての看護師がファミリーハウスの存在を知っているわけではないという点に開いては、看護学生という立場の私としては、患者さんや家族のニーズに応えるために必要不可欠と考えられるファミリーハウスの存在を医療者が知らないのは非常に驚きであり残念なことでした。ファミリーハウスの活用方法は、今後の人口形態・疾病構造によって変化してくると考えられます。そのような変化に伴い、医療サービスを提供する病院の機能自体も、患者さん



熱心に聞き入る皆さん

やその家族が安心して入院時やその時を乗り越えられるよう、入院時における支援も行うよう変化していくべきなのだと思います。今後、私たちは医療者の一人として社会に出て行きますが、今回学んだファミリーハウスの知識や入院時の患者さんや家族が受ける影響を十分に理解したいと思っています。

仙石 弓加里

先日、訪問のお約束をさせていただきながら、風邪をひいてしまい、せっかくのお話を聞く機会に参加することができず大変申し訳ありませんでした。直接お話を聞くことはできなかったのですが、インターネットや、いただいた資料そして実際に訪問した学生から話を聞き、北海道ファミリーハウスにおけるファミリーハウス運動や今後の課題に対して、関心が高まりました。今回、小児看護学実習の一環としてレポート作成にあたり、北海道ファミリーハウスについていろいろと調べていくことで、ファミリーハウスが患者さんや家族にとって精神的支えとなる場所であり、長期にわたる経済的負担を軽減させたりと、いかにファミリーハウスの存在が重要であるかを実感しました。

今後は、今回学んだファミリーハウスの重要性を意識し、より多くの人にファミリーハウスの存在を知っていただけるよう私も学校の仲間たちを初めとしてファミリーハウス運動への参加を呼びかけていきたいと思えます。



それぞれの医療機関で、

皆様の活躍を期待します